

第7回総合科学を考えるセミナー  
「多様化した社会に対応する情報科学のあり方」

日 時： 平成26年10月10日（金曜日）14:50～17:30

会 場： 東北大学情報科学研究科大講義室

急速に進む社会の多様化の中で、学際研究の重要性は声高に叫ばれています。創設当初より学際性を理念として掲げている本研究科は、文理を横断する幅広い研究者を有して、新しい情報科学を創造し、学際研究のフロントランナーたる使命があります。先端研究の中から、基礎教育の現場から、あるいは国際交流・地域交流の中から、学際研究の現状と問題点を探ってまいります。そして、豊かで調和のとれた社会の実現に貢献する情報科学のあり方を皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

パネラー紹介



木下 賢吾（東北大学情報科学研究科 教授）

「個人ゲノム解析における情報科学的課題」

究極の個人情報とも言われる個人ゲノムの解析では、ビッグデータの取り扱いという技術的な課題のみならず、そのデータの取り扱いにおいて倫理的な課題も考える必要がある。本講演では文理両側面からこの問題の検討を行う。



船本 健一（東北大学流体科学研究所 助教）

「マイクロ流体デバイスによる低酸素微小環境の再現と細胞実験」

細胞の低酸素応答を明らかにすることを目的に、微小環境の酸素濃度を制御できるマイクロ流体デバイスを開発して行った細胞実験について紹介する。



前田 吉昭（東北大学知の創出センター 副センター長）

「東北大学知の創出センターについて」

東北大学では日本初といえる本格的な訪問滞在型研究センターを立ち上げた。このセンターの趣旨、事業計画について紹介します。



堀田 龍也（東北大学情報科学研究科 教授）

「メディア社会に必要なリテラシーに関する教育研究」

数々のメディアから溢れ来る情報を冷静に見極める能力「メディア・リテラシー」を育成するための教育に関する研究についてご紹介します。



海老澤 丕道（東北大学名誉教授・工学研究科工学教育院）

「学際科学を担う人材育成を目指して一教養教育6年間の体験」

東北大学の教養教育の実践のなかで改革をはかるミッションを担い、基幹科目と総合科目の実施のなかで感じたことを基に、学際教育について課題をあげてみたい。ただし、現在担当している工学部の基礎科目としての数学教育改革についての話題がはいるかも知れません。